

Dear 港北 NEW TOWN



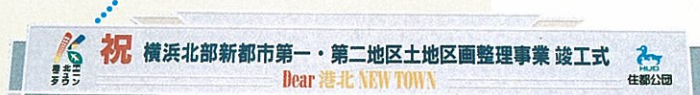
横浜国際港都建設事業
横浜北部新都市第一・第二地区土地区画整理事業

竣工式典報告書

竣工式典・祝賀会



会場／横浜アリーナ



式典



招待者受付



一般受付



クローク



公団PRコーナー



会場移動中（式典会場から祝賀会場へ）



祝賀会挨拶



鏡開き



祝賀会



祝賀会歓談中

開催概要

開催概要

1.名称

横浜北部新都市第一・第二地区土地区画整理事業
竣工式典・祝賀会

2.テーマ

Dear港北NewTown
『私のふるさと私の街、港北ニュータウン』

3.日時

平成9年3月27日(木)
受付開始 午前9時30分～
竣工式典 午前10時30分～午前11時30分
休憩 午前11時30分～午前11時50分
祝賀会 午前11時50分～午後1時00分

4.会場

横浜アリーナ

5.主催

住宅・都市整備公団

6.企画・運営

株式会社 港北都市開発センター

7.招待者

地権者・国関係・県・市・区・地元関係者
その他(企業・マスコミ)・公団関係

8.司会

山田亜樹(NHKアナウンサー)

9.出演者

中国民族歌舞団
都筑太鼓

10.進行補助

ミス横浜4名

[竣工式典]

TIME	項目	進行
9:30	開場	
竣工式典		
10:30	開式	司会者が式典主旨の説明と 開式コメントの後、登壇者入場
10:35	(1) 主催者挨拶	主催者挨拶=住宅・都市整備公団 総裁 牧野 徹
10:40	(2) 事業経過報告	事業経過報告者=住宅・都市整備公団 港北開発局 開発局長 齋藤幸一
10:45	(3) 御来賓祝辞	建設大臣代理 事務次官 伴 襄 神奈川県知事代理 出納長 田中 充 横浜市長 高秀 秀信
11:00	(4) 登壇者紹介	司会者より、その他の登壇者を紹介。
11:05	(5) 記念イベント	記念碑の除幕式を、VTRにて大型映像で 紹介。
11:13	(6) 感謝状贈呈	主催者より地元代表者へ感謝状の贈呈。 贈呈者=住宅・都市整備公団 総裁 牧野 徹 感謝状授受者=地元代表の方々
11:25	(7) 謝辞	地元代表=金子 保
11:30	閉式	司会者による閉式のコメント
	休憩	祝賀会場への移動

[祝賀会]

TIME	項目	進行
11:30	開場	
祝賀会		
11:50	開会	司会者が祝賀会の開会のコメント
11:51	(1) 主催者挨拶	主催者からの挨拶 住宅・都市整備公団 副総裁 水谷 文彦
11:56	(2) 鏡開き	地元代表 金子 保 神奈川県 出納長 田中 充 建設省 事務次官 伴 襄 横浜市長 高秀 秀信 住宅・都市整備公団 総裁 牧野 徹
		住宅・都市整備公団 副総裁 水谷 文彦 衆議院議員 鈴木 恒夫 建設省建設経済局 審議官 木村 誠之 地元代表 山本 光雄
		地元代表 菅沼 喜代造 建設省都市局 技術審議官 矢島 隆 横浜市会議員 嶋村 勝夫 地元代表 青木 公雄
		住宅・都市整備公団 理事 阿久津 孝 地元代表 皆川 亮一 地元代表 田丸 政治 住宅・都市整備公団 理事 下田 公一
12:06	(3) 乾杯	住宅・都市整備公団 理事 井上 喬之 地元代表 小口 一 地元代表 小島 喜治 住宅・都市整備公団 港北開発局 開発局長 齋藤 幸一
		●横浜市会議員 嶋村 勝夫
		●中国芸能 龍の舞
12:11	(4) 歓談	
12:26	(5) 伝統芸能①	●都筑太鼓
12:41	(6) 伝統芸能②	●中国芸能 龍の舞
12:56	(7) 万歳三唱	●地元代表 山本 光雄
13:00	閉会	司会者が祝賀会閉会のコメント



司会／山田亜樹



ミス横浜



住宅・都市整備公団

総裁 牧野 徹



- | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|-------------------|---------------------------|--------------------------|
| (9) 住宅・都市整備公団
港北開発局開発局長
齋藤 幸一 | (8) 住宅・都市整備公団 理事
井上 喬之 | (7) 住宅・都市整備公団 理事
下田 公一 | (6) 住宅・都市整備公団 理事
阿久津 孝 | (5) 建設省 都市局長 代理
技術審議官
矢島 隆 | (4) 建設省 建設経済局長 代理
審議官
木村 誠之 | (3) 横浜市長
高秀 秀信 | (2) 神奈川県知事 代理 出納長
田中 充 | (1) 住宅・都市整備公団 総裁
牧野 徹 |
|-------------------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|-------------------|---------------------------|--------------------------|



- | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|--------------------|-------------------|------------------|-------------------|--------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|--------------------|
| (1) 建設大臣 代理 事務次官
伴 襄 | (2) 衆議院議員
鈴木 恒夫 | (3) 横浜市長
嶋村 勝夫 | (4) 地元代表
金子 保 | (5) 地元代表
山本 光雄 | (6) 地元代表
菅沼 喜代造 | (7) 地元代表
青木 公雄 | (8) 地元代表
田丸 政治 | (9) 地元代表
皆川 亮一 | (10) 地元代表
小口 一 | (11) 地元代表
小島 喜治 |
|-------------------------|--------------------|-------------------|------------------|-------------------|--------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|--------------------|

主催者挨拶

本日、ここに横浜国際港都建設事業 横浜北部新都市第一地区土地区画整理事業及び同第二地区土地区画整理事業の竣工式を挙げるにあたりまして、事業施行者として一言ご挨拶を申し上げます。

先ず、この竣工式に、ご多用中にもかかわらず、建設大臣、神奈川県知事、横浜市長、国会議員の諸先生方をはじめ、関係各位のご臨席を賜りましたことに、心からお礼申し上げます。

私ども住宅・都市整備公団は、昭和30年に日本住宅公団として発足して以来、全国で138万戸の住宅の供給を行うとともに、約37,000ヘクタールの都市開発を手がけ、住宅・宅地の供給と、多様な都市機能を備えた都市の整備などを総合的に推進してまいりました。

この事業は、皆様ご案内のとおり、昭和40年代当初に横浜市の六大事業の一つとして位置づけられた、港北ニュータウン建設事業の中核区域における土地区画整理事業として、多機能複合都市を目指して、事業を推進してまいりました。

顧みますと、当地区は、昭和44年5月に用地の取得に着手して以来、昭和49年8月に施行面積1,317ヘクタール、計画人口22万人の土地区画整理事業として建設大臣の認可をいただき、22年後の昨年9月29日に換地処分公告が行われ、事業の竣工を迎えることができました。

我が国における最大規模の土地区画整理事業でありますこの大事業が達成できたのは、地権者の皆様一人一人のご理解とご協力のもとより、土地区画整理審議会委員、評価員並びに港北ニュータウン事業推進連絡協議会の皆様の大変なご苦勞の賜物と、ここに深く感謝申し上げる次第でございます。

また、国、神奈川県、横浜市をはじめとする関係ご当局のご支援、ご指導に対しまして厚くお礼申し上げます。

私ども公団は、先程も申し上げましたが、全国で都市開発事業を手掛けてきており、また、阪神・淡路大震災の復興事業もお手伝いさせていただいております。街づくりにおいて重要なことは、街が安全かつ快適であるための都市基盤をしっかりとつくり上げること、そして、街づくりの目標を関係者が共有し、その実現に向けて協調していくことであります。

港北ニュータウンが今日の姿に至りましたのは、地元地権者の皆様と横浜市、公団が一体となって取り組んできた成果であり、公団のみならず我が国の今後の街づくりの大きな指標になることと確信しております。

今後、このニュータウンが、皆様の手によってより一層発展し、住む人が誇りを持ち、訪れる人が喜びを感じるすばらしい街となりますよう、引き続き皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、事業が長期間にわたりましたため、本日この場で喜びを共にする事ができなかった物故者の方々に對しまして、生前のご苦勞に敬意を表するとともに、心からご冥福をお祈りする次第であります。また、ここにお集まりの皆様の長年にわたるご尽力に重ねて感謝の意を表しまして、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

平成九年三月二十七日

住宅・都市整備公団
総裁 牧野 徹

事業経過報告



住宅・都市整備公団港北開発局
開発局長 齋藤 幸一

事業経過報告

横浜国際港都建設事業 横浜北部新都市第一・第二地区土地区画整理事業及び同第二地区土地区画整理事業の竣工式にあたり、その事業経過につきましてご報告申し上げます。

港北ニュータウンは昭和40年代当初、横浜市六大事業の一つとして、乱開発を未然に防止するとともに、人口を計画的に誘導し、併せて都市と農業の調和した新しいまちを市民参加により実現するために計画されました。公団は横浜市及び地元の皆様との調整の結果、ニュータウン計画の中で1,317ヘクタールの面積について土地区画整理事業を行うこととなり、昭和44年に用地買収を行い、その後、昭和49年8月27日、建設大臣の認可を得て、事業に着手いたしました。

この事業は、「緑の環境を最大限に保存するまちづくり」「ふるさとをしのばせるまちづくり」「安全なまちづくり」「高い水準のサービスが得られるまちづくり」を基本方針として開発に取り組んでまいりました。

事業計画の大きな特徴としては、「グリーンマトリックス」と名付けましたオープンスペース計画を策定し、自然環境を極力保存して活用を図ることとし、総合公園をはじめとしておよそ90ヘクタールの樹林地を残し、これを緑道によりニュータウン全体に体系化したしました。

事業途中においては、社会経済状況の変化に対応して軌道修正を行い、土地利用計画を変更し、「多機能複合的なまちづくり」の実現にも努めてまいりました。

また、周辺の広域道路や既存鉄道の利便性に加え、関連街路が整備され、新たに市営地下鉄3号線が平成5年に開通し、4号線も具体化されつつある等、ニュータウンの交通利便性は極めて高く、横浜の副都心として位置づけられたタウンセンターは、これからの飛躍的な発展が期待されているものであります。

さらに、事業の実施のうえで特徴的な点をいくつか挙げてみますと、まず地区内の家屋数2,500戸のうち1,500戸の移転を実施いたしました。次に開発に伴う雨水排水対策のため、公団も協力し、建設省により鶴見川の大規模浚渫工事が実施されました。換地計画においては、センター用地等の申出換地や事業長期化に伴う仮清算の実施等公団としても新しい仕組みを取り入れることにより、事業を推進してまいりました。

ニュータウンには、昭和58年のまちびらき以来、新しい住民も住み始め、現在では約8万人の方が住むまちとなりました。また、区役所や歴史博物館などの公共施設や民間の研究所・研修所等の立地も進み、多機能複合都市として成長しつつあります。

事業を進めるにあたりましては、港北ニュータウン事業推進連絡協議会、土地区画整理審議会等の場を中心に、地元の皆様といろいろな問題について協議調整を重ね、途中、事業期間を延伸する等、大変ご苦勞をおかけしましたが、皆様一人一人のご理解とご協力により、昨年9月に換地処分公告がなされ、本日の竣工式を迎えるに至りました。

この事業が竣工できましたのも、構想発表以来、事業推進に協力していただいた四地区の協議会の方々をはじめ地権者の皆様のおかげであり、また昭和50年2月の土地区画整理審議会発足以来、土地区画整理審議会委員並びに評価員の皆様のご尽力の賜物であり、深く感謝いたしております。

また、事業の推進にあたりまして、様々な場面で多大なご指導、ご協力をいただきました国、神奈川県、横浜市をはじめ関係の皆様に厚くお礼申し上げます。

最後に、土地区画整理事業の竣工を迎えたこの港北ニュータウンが、広く地域の皆様に愛される街として、さらに当地域の発展に大きく寄与いたしますよう祈念いたしまして、事業経過のご報告とさせていただきます。

長い間本当にありがとうございました。 平成九年三月二十七日

住宅・都市整備公団港北開発局
開発局長 齋藤 幸一

来賓祝辞



建設大臣 代理
事務次官 伴 襄

祝 辞

横浜北部新都市第一・第二地区土地区画整理事業竣工式が挙行されるにあたり一言お祝い申し上げます。

港北ニュータウンは、開発構想が発表されて以来、三十年余りの長い年月を経て本日、土地区画整理事業の竣工式を迎えました。

この間、わが国の社会、経済を巡る状況には種々の変動がございましたが乱開発の防止、都市農業の確立、市民参加のまちづくりを基本理念とし地元の皆様と横浜市、公団三者が結束して事業を遂行され今日をむかえられた事はご同慶の至りであります。

我が国は、本格的な高齢者社会を迎える中、次世代にも十分通用し、かつ喜ばれる質の高い住宅社会資本の整備や、街づくりが強く求められております。

港北ニュータウンの街づくりにおいては、こうした観点に立って高齢者向け住宅等の先駆的な取り組みがなされ、さらに幹線道路、都市公園はもとより電線類の地下埋設、緑地、緑道の確保など安全性とともに、景観・環境にも配慮した都市基盤施設の整備がなされております。

また、この街にはすでに八万人の方々が生息され、首都圏における業務核都市横浜の一翼を担う存在となっておりますが、今後さらに多くの方々が「住み」「働き」「憩い」「学ぶ」街として成熟して行く事が期待されております。

建設省といたしましては、今後とも住宅・都市整備公団とともに新たな熟成の段階を迎える港北ニュータウンの魅力ある成長、発展に最大限の努力をはらってまいります。

終りに、これまで幾多の困難を克服された地元の皆様の御熱意と御尽力並びに神奈川県、横浜市をはじめとする関係機関の御協力さらには住宅・都市整備公団の努力に対し改めて深く敬意を表するとともに、港北ニュータウンが未来に向かって輝く都市として益々発展する事を期待して、私のお祝いの言葉とさせていただきます。おめでとうございます。

平成九年三月二十七日

建設大臣 亀井静香
代読 建設省 事務次官 伴 襄

来賓祝辞



神奈川県知事 代理
出納長 田中 充

ただいまご紹介いただきました神奈川県出納長の田中でございます。
本来ならば、岡崎知事がまいりましてみなさまにご挨拶申し上げるべきところでございますが、あいにくの、所用のため、お伺いすることができません。
知事からくれぐれもよろしくとのことでしたので、お伝えいたします。
本日の、港北ニュータウン土地区画整理事業の竣工、誠にめでたうございます。

この地区の、土地区画整理事業は、みどりが豊かな国際文化都市横浜にふさわしいまちづくりを、今までとは違った全く新しいコンセプトにより行おうと計画されたものでございます。

昭和四十九年に事業に着手以来、昨年九月の換地処分まで、実に二十二年にわたる大事業でございました。

これによって第一地区、第二地区合わせまして地区面積千三百ヘクタール、計画人口二十二万人に及び国内最大級の街が完成したわけでございます。これもひとえに、住宅・都市整備公団の牧野総裁さんをはじめ、高秀横浜市長さんそして本日御出席いただいております関係の皆様、そして地権者の皆様の大変なご尽力と御苦労によるものでございまして心から敬意を表する次第でございます。

さて、神奈川県では二十一世紀の県政の道標といたしまして新しい総合計画を作成いたしました。

本年の四月から「かながわ新総合計画21」がスタートいたします。
ここ横浜市でございます県の東部地域につきましては、皆様御存じかと思いますが、国際物流拠点や国際文化拠点、情報通信産業の研究開発拠点等の整備が進み、産業や文化の中心地域となっております。その現状をふまえて新総合計画のなかでは「国際文化交流都市圏」と位置付け発展を図ろうといたしているところでございます。

本日竣工した当地区におきましても、すでにご案内のとおり内外の研究所やオフィスそして各種の教育機関が設けられるなど皆様の夢が着実に実を結んでおりまして、皆様方の先見性と実行力にあらためて敬意を表したいと思っております。

本日の竣工をもちまして、ハード面は一応完成いたしますけれどもこれからはソフト面でありまちづくり「緑豊かな」「潤いのある」「活力のある」まちづくりが誕生する事を待ちにいたしておりますところでございます。どうか関係の皆様のおいっそうのご尽力を賜ればと思っております。

簡単でございますけれどもお祝いの言葉にかえさせていただきます。

本日は大変おめでとございました。

平成九年三月二十七日

神奈川県知事 代理
出納長 田中 充



横浜市長
高秀 秀信

土地区画整理事業の竣工式典を、挙行できる、あるいはして頂く事は市長としてまた横浜市として、心から喜んでおる次第であります。

先程来、お話がございますように、構想、計画がスタートしてから20数年に及びまして、この間、地権者あるいは住民の方々、あるいは住宅・都市整備公団の関係の方々におかれましては、本当にいろいろ困難な問題がございましたが力をあわせてこの問題を克服して、本日の竣工式を迎えた訳でございます。

この間の御努力、あるいは御苦労に對しまして心から謝意を表する次第でございます。

本当にありがとうございました。

今横浜市はここに港北ニュータウンを「業務核都市構想」のなかで、あるいは「ゆめはま2010プラン」の中で副都心という位置付けをし、まちづくりをすすめているわけでございまして、土地区画整理事業の竣工というのはその第一段階が終わったもの、できあがったものと思っております。

しかしながら、この先皆様も御承知の通り、市営地下鉄4号線の推進や都市基盤整備についても、なすべきことがまだまだたくさんございます。これを推進するにあたりまして、皆様の御協力あるいは御努力をお願いするという事が多々ございますので、どうぞよろしくお願いをいたしたいと思っております。

また、この事業を推進するにあたりまして、建設省あるいは神奈川県からも御指導、御援助を賜りました事につきましても厚く御礼申し上げます。

この先もまた引き続きまして御援助を賜りたいと思う次第でございます。

私共といたしましても、皆様と力を合わせて理想的なまちづくりにしたいと思っております。どうぞよろしくお願いをいたしたいと思っております。

最後になりましたが、皆様と共に、今日の日を喜びとともに、この先の事業遂行について、皆様と共にやっていく事を表明いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

本日は誠にめでとございました、ありがとうございました。

平成九年三月二十七日

横浜市長
高秀 秀信

記念イベント



3月25日（火）総合公園にて行われた除幕式の模様を会場内大型モニターによる映像で紹介しました。



この記念碑の輪は、地元、横浜市、住宅・都市整備公団の三者を表現しており、その三者の代表により除幕されました。

港北ニュータウン建設事業記念碑除幕式



碑文



感謝状贈呈

謝辞



感謝状贈呈



港北ニュータウン事業推進連協議会四地区会長ならびに土地区画整理審議会会長歴任者の方々に、感謝状を贈呈いたしました。



地元代表
金子 保

横浜北部新都市第一・第二地区土地区画整理事業の竣工に当たり、感謝状を頂戴し、誠に有り難うございます。一同を代表致しまして、一言お礼のご挨拶を申し上げます。

只今は、住宅・都市整備公団の牧野総裁より、身に余る労いのお言葉と立派な感謝状を頂き、誠に光栄に存じます。一同に代わり厚くお礼申し上げます。

私達が当地区の開発を決意した経緯を振り返ってみますと、昭和四十年代始めの頃、この地域にも、我が国の経済成長に合わせた人口集中の余波が及び、災害時が危惧される無秩序な開発の波がヒタヒタと押し寄せてきておりました。

一方、この開発の波は、私達が農村という共同体組織の中で、何代にも亘って守ってきた先祖伝来の土地に、価値の格差を生じさせ、また、周辺の開発により河川が汚れ、農業を継続することが困難となり、農家の生活基盤は徐々に時代の流れの中で変化していきました。このままでは、互いに信頼し、支えあってきた地域社会は崩壊し、災害に脆く、利便性からも取り残された地域となってしまう恐れがでてきました。

このような状況の中で、地域を守り、貴重な土地を守ることは、一人の力ではどうすることも出来ません。農家が団結して、この問題に当たらなければ解決出来ないことです。

この地域の開発について話し合いを始めましたが、当初は70パーセントを超える反対がありました。私達は何代にも亘って培ってきたお互いの信頼感を基礎に、この事を話し合い、そして、自分たちの意思として、この地において土地区画整理事業を実施することを決意したのであります。

この街づくりは、住民参加の街づくりと言われております。そのルーツは、私達が区画整理を決意するまでの過程の中にありました。私達は、横浜市と公団を信頼申し上げ、三者が一体となって、この地を災害に強く、生命を大切にす環境に創造し、そして、新しくこの地に住まれた方々とともに、将来に亘って安全で、快適な生活が出来る街を造ることとしたのです。

市、公団、地元の三者が相互に信頼し、協力して、事業施行の途中において生じた幾多の困難を乗り越え、口はばつたい言い方ではございますが、世界に誇れる基盤整備、街づくりを終え、本日の竣工式を迎えることが出来ましたことは、限りない喜びとするところでございます。

私は、このような市民参加型の開発形態は、今日まで、どこにでも見られないものであり、今後の街づくりの方法を示唆するものではないかと考えております。

この港北ニュータウンの街づくりは、新しい都市づくりの方法であり、この灯は、決して消してはなりません。公団の施行による第二、第三のニュータウンが、後に続くことを心から願って止みません。

そして、公団が、ここでの街づくりの実績を踏まえ、今後新たな事業に取り組み、真に国民が望む街づくりを進められるよう心よりご期待申し上げます。

港北ニュータウンは、人が住み、働き、学び、憩うという観点から見れば、まだまだ緒に着いたばかりでございます。

私どもも街の熟成に向けて、更に頑張ります。港北ニュータウンが名実共に、安全で、快適で、人と自然にやさしい街となるためには、本日、この式典にご列席いただきました皆様方のご指導、ご支援が引き続き必要でございます。皆様方の今後とも変わらぬ、温かいお心遣いをお願い申し上げ、そして、ご列席の皆様方のご健勝をご祈念申し上げまして、私のお礼の言葉と致します。

平成九年三月二十七日

地元代表

金子 保

祝賀会

主催者挨拶



祝賀会会場風景



住宅・都市整備公団

副総裁 水谷 文彦

本日は、この様に多数の皆様の御参加を頂きまして誠にありがとうございます。

先程来、お話がございましたように、この大事業が竣工の運びとなりましたのも一重に地権者をはじめ地元の方々、すでにお亡くなりになりました方々も含めましてそして、横浜市・県・国さらには実に数多くの関係者の御苦労とお力添えの賜物と重ねて厚くお礼申し上げる次第でございます。この街の特色は、わが国における最大の土地区画整理事業であるという事にとどまりませず、計画の初期の段階から地元の方々の御参加を頂き、私共公団といたしましても総力を結集いたしまして、長い時間をかけて育んできた極めて質の高い街でございます。

そうした事で私共といたしましても、皆様方からの大切な預かり物を今日ようやくそのお手もとにお返しできるという事で、ほんとに安堵もいたしておる次第でございます。

事業の施行者として、ひとつの区切りを迎えましたけれども、街の生命の流れからしますと、この街はまだまだ若い青年期の街でございます。

どうかこの上は行政ともあい携えて、一段と質の高い横浜らしいオシャレで美しい成熟した街に仕立て上げて頂きたいと思えます。

本日は心ばかりの粗餐を用意させて頂きました。十分なもてなしはできませんが、お時間の許します限り御歓談を頂き、又旧懷を暖めて頂ければと存じます。

甚だ簡単ではございますが、お礼の御挨拶にかえさせて頂きます。

どうも幾重にもありがとうございました。

平成九年三月二十七日

住宅・都市整備公団

副総裁 水谷 文彦



住宅・都市整備公団 理事 阿久津 孝	地元代表 皆川 亮一	地元代表 田丸 政治	住宅・都市整備公団 理事 下田 公一	住宅・都市整備公団 副総裁 水谷 文彦 衆議院議員 鈴木 恒夫 建設省建設経済局 審議官 木村 誠之	地元代表 山本 光雄	地元代表 金子 保 神奈川県 出納長 田中 充	建設省 事務次官 伴 襄 横浜市長 高秀 秀信	住宅・都市整備公団 総裁 牧野 徹	地元代表 菅沼 嘉代浩 建設省 都市局 技術審議官 矢島 隆	横浜市会 議長 嶋村 勝夫 地元代表 青木 公雄	住宅・都市整備公団 理事 井上 喬之	地元代表 小島 一 地元代表 小島 喜治	住宅・都市整備公団 開発局長 齋藤 幸一
-----------------------	------------	------------	-----------------------	--	------------	-------------------------------	-------------------------------	----------------------	--------------------------------------	--------------------------------	-----------------------	-------------------------	-------------------------

乾杯



乾杯のご発声 横浜市会議長 嶋村 勝夫



いろいろお話がありました様に、大変大きな事業であり、それだけに大変歳月を要した事業でもございます。

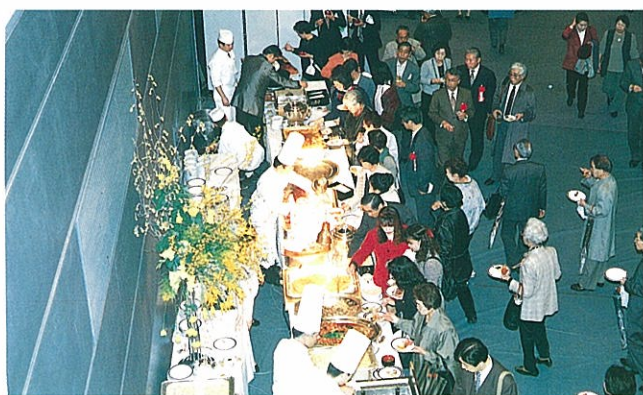
そして、そうした事業であるがゆえに、公団さん、あるいは地元の役員さんを初めといたします、関係者の皆様方の御苦労、御努力は大変なものであったろうと存じます。

心からそうした皆様方の御努力に謝意を表しますと共に、今後この地域が将来にむけてすばらしい街として熟成いたしますことを心から念願をし、御列席の皆様方の御健勝、御多幸を合わせてお祈りを申し上げまして、乾杯をさせていただきますと思います。

横浜市会議長
嶋村 勝夫



歓談



祝賀芸能



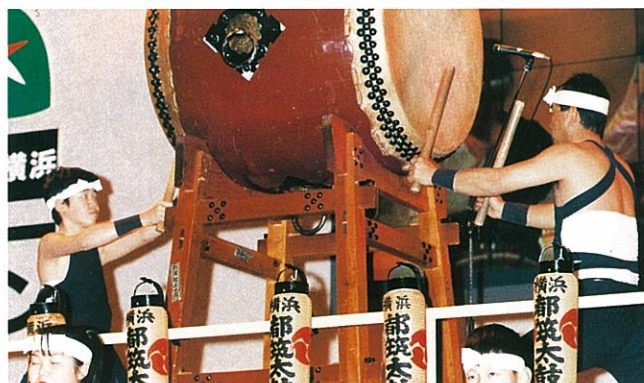
出演／中国民族歌舞団 演目／「龍の舞」



出演／都筑太鼓 演目／「大地」



龍の舞



都筑太鼓

万歳三唱



地元代表 山本光雄



只今、紹介されました山本です、事業もすべて完了しました。
この完了を祝し、さらに長い間お世話になった、市、公団の方々そしてこ
れからのまちづくりに対する期待を皆様と共にし、さらにそれを祝しまし
て万歳を三唱したいと思います、ぜひ大きな声で御唱和を賜りたいと思い
ますので、よろしくお願いを致します。

地元代表 山本 光雄



別会場贈呈式



センテニアルホールでの感謝状贈呈式

当日、ステージ上での感謝状贈呈を行えなかった方々への贈呈式がセン
テナホールで執り行われました。

退館の様子



退館風景



記念品



記念品

- ①写真集
- ②Yカード
- ③時計付フォトスタンド

来場者数

	地権者	関係機関等	総合計
来場者数	2,501名	552名	3,053名

市民参加



地元・市・国の連携プレー

（佐賀県佐賀市）佐賀市と佐賀県、国（国土交通省）が連携して、佐賀市北部の荒れ地を緑豊かな都市に変える事業を進めている。佐賀市北部の荒れ地を緑豊かな都市に変える事業を進めている。佐賀市北部の荒れ地を緑豊かな都市に変える事業を進めている。



乱開発を避け 田園

未来都市



緑豊かな「副都心」へ ビジネスと自然が共存

市民参加の街づくり



港北NT第一、第二地区区画整理事業が竣工、式典

（佐賀県佐賀市）佐賀市北部の荒れ地を緑豊かな都市に変える事業を進めている。佐賀市北部の荒れ地を緑豊かな都市に変える事業を進めている。佐賀市北部の荒れ地を緑豊かな都市に変える事業を進めている。

港北NT第一、第二地区区画整理事業 竣工式典

（佐賀県佐賀市）佐賀市北部の荒れ地を緑豊かな都市に変える事業を進めている。佐賀市北部の荒れ地を緑豊かな都市に変える事業を進めている。佐賀市北部の荒れ地を緑豊かな都市に変える事業を進めている。

